

トマトの周年栽培と水稲有機栽培によるオンリーワンの農業経営実現 ～消費者から愛されるトマトと有機米で有利販売へ～

島貫 清孝、島貫 百合子（米沢市）

1 受賞者の概要

それまで事例の無かったトマトの周年栽培に平成9年から取り組み、雪深い米沢の地でトマトの周年出荷を確立させた。また、平成18年から水稲の有機栽培に取り組み、平成23年には「米沢地域有機農業推進協議会」の立ち上げに携わった。



経営作目：水稲 3.2ha トマト1,000坪 きゅうり250坪

2 活動内容

(1) トマト周年施設栽培を推進

平成9年に大型ハウスを導入し、山形県では事例の無かったトマトの周年出荷を実現した。養液栽培システムでは、トマトの食味を最優先し、生育量や時期に応じて給液量や液肥の倍率等、独自の栽培基準により管理している。

(2) 施設管理の工夫及び所得率向上の取り組み

周年栽培において冬期間の暖房経費が経営費を左右するので、こまめな温度管理等を行い、省エネを図っている。また、夏季の高温対策のため、遮光ネット（遮光率50%程度）を部分的に展帳するなどの方法で、施設内の温度上昇を抑えている。地元直売店の出店に合わせてトマトの直販比率を高めていった。

(3) 環境保全型農業の推進

米の出荷先や消費者の声を聞くなかで、「安全・安心な農産物」に対するニーズが高くなっていることを実感し、平成18年から米の有機栽培を開始した。環境に配慮した食味重視の米づくりに向けて、土壌条件に合わせたきめ細かな施肥計画を立てている。米の食味を上げるため、稲の生育期間中には、有機JAS規格に対応したミネラルやカリ分を含む肥料を施用している。その効果により、生育後半まで稲体の活力が維持され、充実した、食味の高い米となっている。

3 今後の発展方向

トマトの周年栽培については、品種や温度管理、養液の給水量等に工夫を加えて更なる収量アップと食味の向上により所得率を高めていく。

また、長年取り組んできた有機農業の技術を地域の若手農業者に伝え、有機農業の拡大を推進していく。